

R6 ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学 子ども学科

教授 高後 仁

1 教育の責任

令和6年度の担当科目

科目名	学期	対象学年	種別	受講者数	備考	
子ども学演習Ⅰ	前期	1年	演習	15名	1組	
キャリアアップ セミナーⅠ	前期	1年	演習	15名	1組	
保育・教育課程論	前期	2年	講義	47名	1・2組 3・4組	
環境の指導法	前期	2年	演習	46名	1・2組 3・4組	
保育内容環境	前期	1年	演習	58名	1・2組 3・4組	
子ども学演習Ⅱ	後期	1年	演習		1組	
キャリアアップ セミナーⅡ	後期	1年	演習		1組	
子ども学ゼミナ ールⅡ	後期	2年	演習		1・2組 3・4組	
教育原理	後期	2年	講義		1・2組 3・4組	
教育方法・技術論	後期	1年	講義		1・2組 3・4組	
保育・教育実践演 習（幼稚園）	後期	2年	演習		1・2組 3・4組	
SDGsと教育・保 育	後期	1・2年	演習		1・2組 3・4組	
乳児小児救命法	集中	2年	演習		1・2組 3・4組	

授業の充実

- ・ 楽しく、身につく授業
学生の反応、提出資料の内容を根拠とした授業方法の改善
- ・ 学ぶ意義と現場での必要感が高まる授業
短大の学びと実際の保育・教育の関連の明確化
- ・ コンプライアンスとアカウンタビリティへの意識が高まる授業
根拠法令等との関連、教育・保育を行う際の説明責任の重要性の伝達

研究活動の推進

- ・ 地域素材を保育に生かす研究の推進
- ・ 保幼小のスムーズな連携に関する研究の推進
- ・ SDGs と保育に関する研究の推進

地域貢献活動

- ・ 日本宇宙少年団さいたま支部 オルフェス分団長
- ・ 鳩山町放課後子ども教室運営委員
- ・ 鳩山町地域見守り支援ネットワーク代表者会議
- ・ さいたま市立公民館 主催講座講師（R6 3講座予定）

2 教育の理念

学びたい子どもがいる、教えたい大人がいる、そこに学校ができる。学校は子どもにはもちろん、そこで働く教職員にも、保護者にも地域の方々にも楽しい場所でなければならない。これが私が30年以上かかわってきた初等教育における教育理念である。この理念を高等教育においても同様に掲げていきたい。学生は目的をもって本学を選択し、通学している。長年初等教育にかかわった経験と日々の研究、研修を活かし、学生の意欲に応え、質の高い楽しさを提供していきたい。

2017(平成29)年3月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂・告示され、平成30年4月から施行された。幼稚園だけでなく保育所、幼保連携型認定こども園とも幼児教育の一翼を担う施設として、教育に関わる側面のねらい及び内容に関して、前記3つの要領や指針の整合性が図られた。そして幼児教育において育みたい資質・能力が示されたこと、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿が明確化されたこと等、多くの新たな方向性が示された。幼稚園教諭、保育士の養成を掲げる本学においては、改めて幼児教育の重要性を認識し、日々の授業の充実に努めなければならないと考える。

そこで、以下の3つの方策をもって本学の教育活動の充実に寄与し、自身の教育理念の実現に取り組んでいきたい。

《保育内容 「環境」の充実》

1人ひとりの子どもにとって環境は、

- ・地球環境、自然環境、生活環境、家庭環境といった「広い意味での環境」、
- ・保育環境、園庭環境、物的環境、人的環境そして環境構成といった「場所や空間、物や人としての環境」、
- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に5つの領域の一つとして位置づけられている「領域としての環境」

に大別できる。保育内容「環境」を指導する際に、「広い意味での環境」を子どもとともに意識し、「場所や空間、物や人としての環境」を整え、「領域としての環境」に示された内容を経験させることができる保育士の育成に努めたい。そのために、3つの要領や指針における環境の位置付けや、不足がちと言われる原体験、その中で本学の豊かな自然環境をどう生かしていくかを追究し、授業に反映させていく。

《小学校教育との円滑な接続に向けて》

「小1プロブレム」という言葉が使われるようになって久しい。平成元年度の小学校学習指導要領改訂で生活科が新設された根拠の一つにも上げられる。保幼小の連携、そして円滑な接続については前記した3つの要領や指針にも示されており、幼児教育の重要な課題の一つである。具体的な方法として、指導の工夫、児童と幼児の交流、教職員の連携・協力、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成・実施等があげられるが、私自身、初等教育において様々な事例を経験してきた。現状や考えられる対応に加え、私自身が経験してきた事例や効果的な方法を学生に伝えていきたい。その際に、保育者としてどのような対応が考えられるか、学生に考えさせる時間を確保し、そのうえで、具体的な事例、参考例を伝え学びを深める手続きとしたい。

《「SDGsと教育・保育」の充実》

昨年度開講した「SDGsと教育・保育」。新規講座として2年の準備期間を経ての実施となった。昨年度の内容「基礎的な知識の学習」「地球の現状を知る学習」「将来に生きる調査・研究」に今年度は「地域の特徴・文化を体験する」を加え、4部構成で実施する。

SDGsを意識した保育は各地で実践されているが、その内容、方法は様々である。保育者自身が基本を学び納得する、現状を知り必要感をもつ、自身の生き方や保育に生きる工夫を研究する、といった展開を目指したい。

本講座の充実に向けて「SDGsに関する専門家の招聘」「地域の専門機関との連携」「学生の主体的な調査・研究時間の確保」を具体的な方策として実施していく。その中で、本学を選択した学生の多くが高い関心をもっている「自然環境の保全」に関する内容で多くの調査・研究が行えればと考えている。

3 教育の方法

(1) 子ども学演習Ⅰ・Ⅱ

【ねらい】

体験学習、保育体験、行事等に関する事前学習・準備、クラスゼミ学習等を通して保育者としての学びの意欲を高め、社会人・職業人としての使命感や自立心を涵養する。

【到達目標】

幼稚園、保育所、社会福祉施設の実地を体験し、理解している。

保育の方法・技術の実際を観察や記録を通して理解している。

園行事の企画・運営の基礎を理解し、それに参加したり補助的な役割を担ったりすることができる。

基本的な生活態度・学習態度、望ましい職業観・使命感を身につけている。

(2) キャリアアップセミナーⅠ・Ⅱ

【ねらい】

1人ひとりに興味関心、進路に即したキャリアアップテーマや学習を通して、保育者としての必要な専門的知識・技術を身に付け、保育者としての自覚を高めキャリアアップを図る。

【到達目標】

保育者に必要とされる知識・技術、マナーを定着させる。共感性や協働性などを対人関係の適切な場面で発揮できる。

保育者・社会人として必要とされる態度、マナー、対人関係コミュニケーション力等の資質・能力の向上を図る。

(3) 保育・教育課程論

【ねらい】

幼稚園及び保育所における、カリキュラムを理解し、実際のカリキュラムに沿って指導計画が作成できる保育者としての専門的な知識・技能を養う。

【到達目標】

ねらいを達成するために、各カリキュラムについて理解し、保育士・幼稚園教諭として資質の向上と子どもたちのために、カリキュラムからしっかり指導計画の作成ができるようにする。

(4) 保育内容 環境の指導法

【ねらい】

領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもつて関り、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。

【到達目標】

幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。

(5) 保育内容 環境

【ねらい】

幼児を取り巻くさまざまな環境や幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

【到達目標】

環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、身近な環境との関りを具体的な生活事例（製作・遊ぶ活動）を通して実際に行い体験的に学ぶことができる。

環境を、広い意味や保育内容「環境」としての意味を理解し、具体的な体験・経験のなかで身に付けていく。

環境とは、領域「環境」とは、環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解することができる。

(6) 子ども学ゼミナールⅡ

【ねらい】

クラスやゼミナール活動での活動を通して、保育の専門的知識や技能、多様な教養を学習し、現代社会を取り巻く現状を捉える力を養う。さらに自らが職業人として必要な課題を見出し、分析や考察したことを他者へ表現する方法を学ぶ。その上で、主体性をもって多様な人々と協議して学ぶ態度を身に付け、保育者としての情熱と使命感を養う。

【到達目標】

ゼミナール等での活動に主体的に取り組み、得たい知識や技能を自発的に獲得できる。

職業に対する求められる態度、マナー、コミュニケーションを理解し、行動に示せる。

多用な体験や様々な他者との関わりを主体的に受け止め、肯定的、建設的に物事を捉え、体験や関わりを価値あるものにしようとする。

保育者として社会人になる覚悟をもって、主体的に活動に取り組もうとする。

(7) 教育原理

【ねらい】

教育の目的や意義・方法等について学習し、保育士・幼稚園教諭として必要な基本的な知識や考え方を習得する。

【到達目標】

教育の意義・目的について理解する。学校教育の歴史と制度について理解する。教育の制度について理解する。教育実践のさまざまな取組について理解する。教育の現状と課題について理解する。

(8) 教育方法・技術論

【ねらい】

幼児期の学びは子どもを主体として、環境や遊びなどの経験を通して育まれるものであるということを理解する。幼児教育の方法を多面的に論ずることができるための基礎知識を養う。

【到達目標】

様々な教育方法とその特徴を説明することができる。幼児期の特徴に応じた教育方法について説明できる。

(9) 保育・教育実践演習（幼稚園）

【ねらい】

幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を把握する。

【到達目標】

学生が教員・保育者となるうえで、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を各自で図る。

(10) SDGs と教育・保育

【ねらい】

SDGs に関する知識や実践を学び、教育・保育の現場で生かせる実践方法を、自分たちで調査・研究し、構築することができる。

【到達目標】

SDGs の 17 の目標、観測データの大切さとそこから導かれる地球環境の現在を理解している。幼稚園や保育所をはじめ、様々な場で展開されている SDGs の実践をその意義も含めて理解している。研究の進め方を理解し、教育・保育で生かせる実践方法を獲得している。

(11) 乳児小児救命法

【ねらい】

乳幼児の保育現場における事故防止と、万一の緊急時に医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当を習得する。

【到達目標】

全ての授業に出席することにより、希望者は L.S.F.A.-Children's (小児用 BLS プログラム) の「FIRSTAIDER with CPR Training Certificate」認定カードを申請し取得できる。認定を取得することで、L.S.F.A.本部より 2 年間にわたり訓練内容が証明される。

4 教育の成果、評価

令和5年度前期定期試験前に学生に対して授業アンケート（E d u N a v i）を実施。

- 問1
- ・欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。
 - ・私語を慎んで授業を受けましたか。
 - ・授業の要点を配布プリント等にとっていましたか。
 - ・シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。
 - ・予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。
- 問2
- ・授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。
 - ・授業内容のレベルは適切でしたか。
 - ・授業の進度（速さ）は適切でしたか。
 - ・この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。
- 問3
- ・教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。
 - ・授業の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。
 - ・授業中の板書やプロジェクター（パワーポイント等）の利用は適切でしたか。
 - ・教材や資料はよく準備され、うまく活用されてきましたか。
 - ・教員は学生の質問に適切に対応し回答してましたか。
 - ・学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。
- 問4
- ・全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。
- 問5
- ・授業の感想を自由に述べてください。

(1) 子ども学演習 I

5. 0 (満点)

問1 平均 4.4 問2 平均 4.5 問3 平均 4.5

問4 平均 4.3

問5 自由記述

- たくさんのお話を体験出来てすごく楽しかった。
- 物見山へのハイキング、スイカ割、外部講師の方の講義など、体験を中心とした授業で、楽しみながら現場に出た時の生かし方を学ぶことができた。
- 子ども学演習の時間があつたことで他の人とコミュニケーションをたくさん取ることができ、友達と仲良く出来てよかった。
- 無駄な時間が多かった。時間を短縮したり工夫できると思う。
- 次の授業の内容を簡単に知らせてほしい。

(2) キャリアアップセミナー II

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 5 問2 平均 4. 5 問3 平均 4. 5

問4 平均 4. 4

問5 自由記述

○レポートの書き方や実習、ボランティアに向けての取り組み方など教えていただいたことを、これからのボランティアや実習に生かしていこうと思います。

○学校生活のことを考えたり進路を考えたりするうえでたくさんのお話が聞けてよかった。

○これが本当に必要があるのだろうかという疑問に思う内容も複数あった。

○次回の予定をもう少し教えていただくと助かります。

(3) 保育・教育課程論

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 5 問2 平均 4. 5 問3 平均 4. 6

問4 平均 4. 5

問5 自由記述

○毎回まとめるところがあり、少しずつ頭に入ったと思います。

○授業中にスライドを写して後から自分なりに復習するやり方をとっていたので、個人的にはとてもやりやすい授業でした。

○教科書にない部分の補足説明は価値が高いと思う。板書と口頭説明を分ける配慮がほしい。

○教科書の内容を伝えるだけではなく、ここでしか学べない内容や学生とのやりとりを通じて考えさせることでより主体的で深い学びになると思う。

(4) 環境の指導法

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 4 問2 平均 4. 5 問3 平均 4. 5

問4 平均 4. 4

自由記述

○折り紙や笹船、飛行機等をつくり、現場で生かせる経験が出来た。とても楽しかった気持ちも子どもに伝えていきたい。(多数)

- 苗植えから関わった野菜が大きくなり、収穫し食べることができた。その過程で野菜に対する思い入れが強くなり、美味しく食べることもできた。(多数)
- 特にエコカルタが印象に残っており、これなら環境を学びながら子どもと楽しく遊べそうなので、現場でもやってみたいと思いました。
- この授業では保育の現場ですぐに役立つ様々なことを学びました。実践的な授業が多く、保育者になった時に生かせると思いました。(多数)

(5) 保育内容環境

5. 0 (満点)

問1 平均 4.6 問2 平均 4.8 問3 平均 4.7

問4 平均 4.6

問5 自由記述

- 元々自然が好きだったけれど、この授業を通して更に自然が好きになりました。様々な生き物に関する知識も深めることができよかったです。学んだことを活かせる機会が来るのが楽しみです。
- 植物の種類や虫の鳴き声など、元々知っていたことや少しだけ知っていたこと、知らなかったことを改めて確認し知ることができてとてもよかったです。(多数)
- 草花や樹木の特徴が実際に見て、スケッチする中でわかりました。鳥や虫の鳴き声はどの種類も変わらないと思っていたけど授業を受けてまったく異なる鳴声な事がわかりました。(多数)
- 雲、星、動物、虫など私の好きなものばかり学べたので本当に楽しかったです。この授業を将来に役立てたいです。
- 外に出たり見たものを絵で描いたりすることで、記憶に残りやすかったです。自ら体験することで、子どもたちが生活する上での、自然とのかかわり方、安全な環境の作り方を考えることができました。四季のある日本だからこそ、子どもたちに四季を味わってもらえる環境構成をしたいと思います。

5 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 子ども学演習 I・II

短期的目標	<p>○担当が1年生で、多くの学生が、初めての経験ということもあり、見通しをもって活動することが難しい状況である。教員が見通しをもって指導・助言にあたることで、学生がゴールをイメージしながら活動できるよう支援していく。また幼稚園、保育園などで実施される行事の企画・運営に必要な実践的な保育能力や協働性を全員が身に付けることができるよう、一部の学生が中心に活動するのではなく、すべての学生が各種行事の企画、運営に携われるように支援していく。</p> <p>○職業観、使命感を身に付けさせるうえで重要なことの 하나가、学生の努力を評価することと考える。教員が評価することはもちろんであるが、学生同士で肯定的に評価しあうことが、働く喜び、達成感の獲得、自己肯定感の高まりにつながり、職業観、使命感の獲得にもつながる。そのような機会を適切に準備していく。その際、抽象的な言葉による評価ではなく、より具体的な言葉による評価（例えば、〇〇の△△という提案が、～という結果につながった 等）を実施していくことが重要と考える。</p>
長期的目標	<p>○年間計画をより具体的に学生に提示していきたい。</p> <p>○授業を通して獲得できる力、能力を明確に示し、学生自身がしっかり振り返る時間を確保し、授業を通しての達成感とともに、自身の努力の成果を実感できるようにしていく。</p> <p>○本学の立地特性を生かしたナチュラル保育検定については、その実施を一つの契機に、自然環境・地域環境を保育に生かすノウハウを身に付ける活動を定期的に継続していく。その際、SDGsの視点を多く盛り込んでいく。</p> <p>○主体的、対話的で深い学びの実現に向け、授業での経験を保育所、幼稚園でどのように生かせるかについても考えさせていきたい。</p>

(2) キャリアアップセミナー I・II

短期的目標	<p>○初年次教育について高い評価があった。学ぶ意義に加え、学ぶ方法についても学生が獲得を望んでいることが感じられた。今後も将来に向けて学生が望む情報を継続して伝えていきたい。</p> <p>○履歴書指導につながる内容についても高い評価があった。なぜ書くのか、どう書いたらいいのかの指導を通して、学生に自身を振り返らせ、長所や思いに気付かせ積極的にアピールできるよう指導していき</p>
-------	---

	たい。併せて、社会人として活躍するための自分自身の課題についても気付かせていきたい。
長期的目標	<p>○就職活動に関する指導については、希望職種に応じた予定に基づき、学生が見通しをもって活動できるよう支援していく。</p> <p>○授業を通して獲得できる力、能力を明確に示し、学生自身がしっかり振り返る時間を確保し、授業を通しての達成感とともに、自身の努力の成果を実感できるようにしていく。</p>

(3) 保育・教育課程論

短期的目標	<p>○講義だけでなく、毎回プリントを作成し、記入・提出を求めることを継続してきた。特に提出されたプリントを翌週の授業で、評価したうえで返却することが効果的であった。今後一人ひとりに応じた評価、コメント等、学生がより達成感を味わえる評価方法を工夫していく。</p> <p>○半期の講義の前半は各カリキュラムの必要性や特徴の学習に、後半は子どもの姿を想定しながら、カリキュラムから指導計画を作成する学習を進めてきた。このシステムを継続することで、保育士・幼稚園教諭の資質の向上につながるものとする。</p> <p>○講義の速さ、パワーポイントの文字数、プリントへの記入量等を学生の声を生かし、改善するとともに、毎回授業開始時に前時の復習を行ってきた。その成果は自由記述からも一定の成果が上がっているものとする。今後も学生の反応、意見を授業方法の改善に生かしていきたい。</p>
長期的目標	<p>○なぜ各カリキュラムの必要性や特徴を理解しなければならないか、それが幼稚園や保育所でどう役に立つのか、効果的に伝え、学ばせる方法を研究していく。</p> <p>○法令等や各幼稚園、保育所の方針等を遵守する中で、幼稚園教諭・保育士が自分の資質や感性をどう生かしていくか、指導計画の作成時間をより多く確保し、具体例を踏まえて伝えることで、学生の学ぶ意欲も高めていきたい。</p>

(4) 環境の指導法

<p>短期的目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回の授業で評価し返却。その評価を楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。12回 中出欠状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。
<p>長期的目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「環境の指導法」。生活科の意図している内容は一部引き継ぐ。 ○ 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。 ○幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。

(5) 保育内容 環境

<p>短期的目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保育内容環境に関しては、令和元年度子ども学科より始まった新設科目。体験型で実物に触れる貴重な科目。本学の豊かな自然環境が活かせる科目。 ○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回の授業で評価し返却。その評価を楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。15回中、節目に提出状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。
--------------	--

長期的目標	<p>○Think globally, act Locally</p> <p>“地球規模で考え、足元から行動せよ”</p> <p>“思索は世界的に、行動は足下をしっかりと固めて”</p> <p>というように解釈されている。</p> <p>SDGs（持続可能な開発目標）にもあるように、「水問題」「フードロス」「プラスチックによる海洋汚染」等環境問題の認識は多種多様で世界の国々や人々によっても大きく異なる。自然環境は価値が高く大切に守るべきものであるが、時として人間の経済活動のために過剰に使われがちである。それは人間が環境に対する知識・意識・情報が薄いまま、行動・生活をしていることに起因する。それを改善・解決していくためには、一人ひとりが問題を認識し、情報などを共有して行動することが必要である。つい「自分一人が行動しても変わらない」と思いがちだが、一人ひとりが行動を起こし、学校や会社、地域コミュニケーションを図ることで改善に向けて前進することができる。資源・エネルギーは有限である。その認識をしっかりととらえ、“もったいない精神”を常に意識し、資源のリサイクル、エネルギーの節約に努めたいものである。</p>
-------	--

(6) 子ども学ゼミナールⅡ

短期的目標	
長期的目標	

(7) 教育原理

短期的目標	
長期的目標	

(8) 教育方法・技術論

短期的目標	
長期的目標	

(9) 保育・教育実践演習（幼稚園）

短期的目標	
長期的目標	

(10) SDGs と教育・保育

短期的目標	
長期的目標	

(11) 乳児小児救命法

短期的目標	
-------	--

長期的目標	
-------	--

6 その他

(1) ナチュラル保育検定への取り組み

保育士や幼稚園教諭に必要なことは、知識や技術だけではない。物事に興味をもつこと、「知りたい」という子どもに負けない好奇心を持ち、命の大切さや生きる力を育てることが大切である。本学の緑豊かなキャンパスに生きる動植物等を学び、自然に関する知識やあそびに関する保育技術の習得のために、「ナチュラル保育検定」を実施している。

- ・令和元年度よりテキスト（冊子）と合わせてスマホ対応で検索できる方法を導入。
- ・令和6年度についても第1回ナチュラル保育検定を6月13日に実施。第2回は11月28日に実施予定
- ・テキストについては、令和5年度版よりSDGsの視点を取り入れ一部加筆。
- ・令和5年度より木本名札を設置。QRコードを添えることでより簡便にデータにアクセスできるようにし、保育検定でも活用。
- ・実施しての課題の一つに、複数回受検しても合格しない学生への指導があった。今年度から学生が作成した答案を採点后返却することを取り入れ、実施している。



 ナチュラル保育検定テキスト 2019	題名 ファイアーサークル	概要 自然の中で火を焚くことは、古くから行われてきた文化の一つである。火を焚くことで、周囲の環境を暖め、虫除けの効果がある。また、火を焚くことで、自然の恵みを感謝し、自然と向き合うことができる。
	SDGsの観点 環境意識の向上、自然の恵みの感謝、自然と向き合うことの大切さの認識。	掲載ページ 12
 ナチュラル保育検定テキスト 2019	題名 木本名札	概要 木本名札は、自然の中で木を育てるための大切な道具である。木本名札には、木の名前や育て方のコツが記載されている。また、木本名札には、QRコードが添えられており、スマホで検索することができる。
	SDGsの観点 環境意識の向上、自然の恵みの感謝、自然と向き合うことの大切さの認識。	掲載ページ 13



令和5年度テキスト

加筆ページ

木本名札

(2) SDGs ワーキンググループ担当として

SDGs ワーキンググループ担当として以下の内容に取り組んでいる。

① 敷地内の環境整備

ファイアーサークルの運用、プロムナード周辺の緑化、腐葉土事業の実施
植物名札のQRコード化、シイタケ栽培、スズメバチトラップの作成・実施

② 学生の自主活動の支援

環境整備委員会の取組（落ち葉回収、定期的な清掃活動の実施）

どんぐり銀行事業

③ 授業の展開

「SDGs と教育・保育」に授業計画の共有、新たな活動（鳩山窯跡群に関する学びと体験）の開発、関係機関との連携

④ 地域貢献活動・啓発活動

山緑祭への出展、体験活動の実施

②プロムナード周辺緑化。

③敷地内落ち葉を活用した腐葉土作り。

④敷地内のどんぐりを回収し、どんぐり銀行に預け、苗木を受領

⑤QR コードを記載した木本名札の作成・設置

⑥新講座「SDGs と教育・保育」の構想

今後、ワーキンググループでの検討を経て、各種事業の継続に加え、腐葉土の活用、苗木の寄贈、新規講座の開講を予定。さらにニホンミツバチの養蜂事業、草本名札の作成等の研究も進めており、可能な事業から実施していく計画である。

7 エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（子ども学演習Ⅰ・Ⅱ、キャリアアップセミナーⅠ・Ⅱ、保育・教育課程論、環境の指導法、保育内容環境、子ども学ゼミナール、教育原理、教育方法・技術論、保育・教育実践演習（幼稚園）、SDGs と教育・保育、乳児小児救命法）
- (2) 授業時配布プリント
- (3) 試験問題
- (4) 成績集計結果
- (5) ナチュラル保育検定
- (6) SDGs ワーキンググループ検討内容報告